

Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2022

Go on a journey to find your



tourism

Contents –目次–

1. Reports –和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告–
2. Topics –過去のイベントとニュース–
3. Future Events –今後のイベント紹介–

■ World Tourism Forum Lucerne 2020/2021 に参加して

森田 光さん (12 期生 (2022 年 3 月卒業) / 愛知県立半田高等学校出身)



英語を使って、海外で自分のアイデアを発表し、それが国際的に評価される。そのような瞬間が訪れるとは、入学前には思いもませんでした。

私が和歌山大学観光学部を選んだ理由は、ただ漠然と観光という分野が面白そうだから。そして、その他に大学で学びたいと思うような学問が見当たらなかったからです。当時の私は海外旅行に行ったこともなく、英語は一番苦手な教科でした。将来はなんとなく、地域の活性化に携われるような観光系の職業に就きたいと考えていました。

そんな私が WTFL (ワールドツーリズムフォーラム・ルツェルン) のヤングタレントプログラムに参加したきっかけは、募集要項に「ファイナリストは無料でスイスに招待されます！」という記載を目にしたからです。とりあえずやってみようという軽い気持ちと、タダでスイスに行きたいという一心で応募を決めました。

しかし、当然の如く、選考は簡単なものではありませんでした。よりよいアイデアを作り上げるのはもちろん、書類審査や動画審査など、私にとって初めてのことばかりでした。そんな中で、それまで観光学部の講義で培ってきたことが大いに活かされました。例えば、私のテーマは LPP (地域連携プログラム) の一環で、岩手県で行った農村ワーキングホリデーの経験から想起したものです。

スイスで行われた最終選考は、自らのプレゼンテーションスキルが大きく問われました。しかし、講義内で英語での発表機会が多くあったことや、先生方のご指導のおかげで自信をもって臨むことができました。表彰式で自分の名前が優勝者として呼ばれた時、安易な気持ちで応募したものの、その時の決断が正しかったのだと強く感じました。

3 日間のフォーラムは私にとって全てが新鮮でした。同じ観光学を学ぶ学生でも、考え方や経験、今後のキャリアプランに至るまで、全く知らない世界が広がっており、その全てが私にとって刺激になりました。また、観光業界の中心で活躍している著名人の方や、今後を担う同世代の方たちと実際にお話しをする機会もあり、講義では学ぶことや考えることのない新たな視点から観光を見つめ直す機会にもなりました。

このプログラムに参加したことは私の人生において間違いなく大きな転機になりました。和歌山大学の観光学部には自分を変えてくれるような機会がたくさんあります。そして、それを応援してくれる人がたくさんいます。今振り返れば、観光学部での 4 年間は自分探しの旅に出かけているような時間でした。ここでは、自分が心を燃やして打ち込むことのできるものがきっと見つかるはずです。

最後に、本プログラムの参加において、手厚いご指導をいただいた永井先生、柴本様にこの場を借りて感謝申し上げます。

➡ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021111700045/>

■ Student Innovation College (S カレ) 2021 「SDGs 旅行商品」プラン・テーマ 1 位 & プラン準優勝

塩路 彩乃さん (13 期生 / 大阪府立岸和田高等学校出身)

齊藤 彩花さん (13 期生 / 大阪府立岸和田高等学校出身)

谷口 紗彩さん (13 期生 / 兵庫県立八鹿高等学校出身)

尾上 雄介さん (13 期生 / 大阪府立久米田高等学校出身)



S カレは、25 大学 28 ゼミ 396 名のマーケティング、商品企画を学ぶ 3 回生が 8 つのテーマに分かれ、商品化をかけて優勝を競い合う商品企画コンテストです。

私たちは株式会社日本旅行の「SDGs に貢献する旅行商品」というテーマに参加しました。SDGs は堅いイメージがあり、楽しいイメージのある旅行とどう合わせて商品企画を行うか、アイデア創出は非常に難しいものでした。いろいろなアイデアを出し合い、「楽しく、真剣に SDGs を学ぶ」をテーマに「SDGs × 謎解きツアー」という私たちの旅行商品が完成しました。

アイデアが決まった後は、商品イメージポスターや謎解きの問題・ストーリー、旅マップの作成など、

メンバーがそれぞれの得意を活かし、全員でイメージを具体化していきました。周りの人達からは大変そうという言葉をいただくこともありました。確かにつまづくこともたくさんありました。しかし、このメンバーだからこそ、大変だというより、毎日が楽しいものでした。日々の活動を楽しむことによって創り上げた私たちの旅行商品の楽しさが体験者に伝わるように、これからも私たちの活動は続きます。

今回、旅行商品の制作を進めていく中で、まずは、幼い頃に日常をワクワクさせてくれた「旅行」とそのパンフレットに携わらせていただけることを、とてもうれしく感じています。「旅行」という目に見えないサービスに消費者が求める価値をもたらし、その価値をしっかりとお伝えすることができるように考えていくことこそが、商品企画の楽しさであり、一番の難しさでもであると学びました。しかし、試行錯誤を繰り返しながらもSDGsと謎解き、そして「新しい」白浜観光という3つの要素を旅の1つのストーリーとして、この地域やこの商品だからこそその価値を体感できる旅行商品としてまとめあげられたこと、嬉しく感じています。

また、協力していただいたすべての皆様にはメンバー一同感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そして何より、良い商品を創り上げたいという思いから、メンバーと日々意見を交わしていく中で、自身を成長させてくれるメンバーに出会えたことを嬉しく感じると同時に、自分自身に足りなかったものを沢山教えてくれたメンバーからは改めて感謝の心を学ぶことが出来ました。ありがとうございます！

今後は、実際に消費者のもとに私たちの商品を届けられるよう、株式会社日本旅行の皆様と共に企画を進めます。そして、貴重な経験ができていることに感謝すると同時に、1年間共に協力してきたメンバーと翌年のSカレ秋カンでの総合優勝を目指します。



➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022010400012/>

■ 香村賞への挑戦

峪 愛麗さん (14期生/和歌山県立星林高等学校出身)

高校2年の夏。地元で進学する自分など想像もしていなかったのに、「絶対和歌山大学の観光学部に行きたい!」という強い気持ちを持たせてくれたのが、「手段としての『観光』」との出会いでした。今まで持っていたイメージとは違う、地域へ利益を還元するための観光。育ってきた環境もあり意識せざるを得なかった、社会の明るくない部分を、観光というキラキラした手段で解決できるかもしれない。観光の魅力に気づいてしまった私は入学後も「住人も旅行者も幸せになれる観光とは、なにか」というテーマにずっと興味を持っていました。

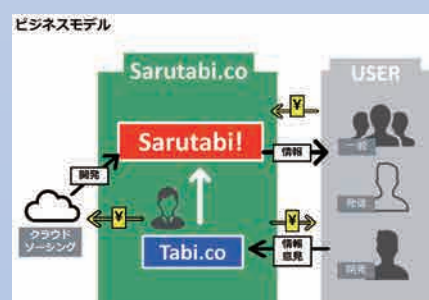
大学2年になり今までに得た学びを思い返したとき、「そろそろアウトプットをするべきだ。」という考えが浮かびました。上記のテーマについて、課題も解決策もぼんやりとは思っていたのですが、そのことに本気で向き合う機会を持つとはしていませんでした。しかしそのとき、力試しをしてみたくなったのです。

和歌山大学内で「香村賞」というビジネスプランのコンテストが行われることは、所属する企業支援サークル AKINAI の先生から教えていただきました。期限が決まったことで、向き合う準備が出来た、とはっきり感じたことをよく覚えています。やる気十分でビジネスプランの作成に取り掛かったもののアイデアに行き詰ったり、そもそもこの考え方では解決につながらないのでは?と不安な気持ちを持ったり、資料がうまく作成できなかつたり…コンテストに応募するのも初めてなら、ビジネスの仕組みをつくりあげることも初めて。右も左も分からない私を支えてくださった、AKINAI の先生方や私の大切な友人たちには感謝してもしきれない思いです。

何度もアイデアを練り直し、前日の夜は(お恥ずかしながら)寝ずに資料を作り直し、緊張で声も手も震えながら、なんとか無事に発表を終えることができ、ほっとした気持ちになりました。しかしさらに嬉しいことに、2つの企業様から賞を頂けることになったのです。

皆さんのお力添えのもと、何とかお伝え出来た私のビジネスプランに対して嬉しいご評価を頂けたことは、自分にとって本当に大きな意味を持つ出来事でした。「私のやり方に、賛同して下さる方々がいるんだ」と知ることが出来たからです。

今回ご提案したビジネスプランは、「観光で日本を変える」という私の夢への一歩です。観光には、日本の抱える様々な問題を明るい方向へ引っ張っていける力がある、と私は強く思います。頂いたご評価を糧に、今後も和歌山大学でたくさんの方を学びたいです。



➔ 和歌山大学産学連携イノベーションセンター HP <https://www.wakayama-u.ac.jp/cijr/news/2021122200015/>

■ Activity for Project 「Experience-based tourism at Shirakawa Go World Heritage Site

(世界遺産白川郷における体験型観光)」

黒田 貴也さん (14期生/清教学園高等学校(大阪府)出身)

野田 優さん (14期生/大阪府立泉北高等学校出身)

森 華乃子さん (14期生/大阪府立三国丘高等学校出身)



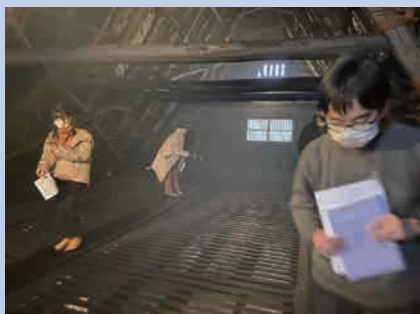
私たちは2021年度、チャクラバルティー・アビック准教授担当の演習型授業「Activity for Project」の一環として、世界文化遺産白川郷を訪れ、地域の変化・観光・住民の意識について勉強してきました。

まず座学では、4月から10月頃にかけて文献の輪読やブレインストーミングなどを通じて白川郷の歴史や景観の成立過程を学び、白川郷の現状に対する知識と問題意識を醸成しました。そして、11月には白川郷を訪問しフィールドワークを実施しました。フィールドワークでは、合掌造り家屋に滞在し、地域の展示施設の見学や民宿の経営者、観光客への聞き取りを行いました。これらの体験から、文献やインターネットの情報だけでは見えてこなかった地域ならではの課題(観光客の素通り問題や地域文化の継承)を肌で感じることができ、非常に有意義な学びとなりました。また、白川郷は、検証現場としてだけでなく、個人的な旅行先としてもまた訪れたいと感じるほど魅力的でした。



フィールドワーク終了後、文献調査、実地調査の結果を踏まえ、受講生各自が感じた課題や情報を授業で共有しました。そして、1月21日に、ここまでの集大成として発表会を行いました。15人というチーム体制で協力して発表するという事は、多くのメンバーにとって初めての経験だったのでなかなか難しいところもありましたが、最終的には首尾一貫した発表を行うことができたので、榮譽に感じます。また、チャクラバルティー先生からも好評をいただきましたが、同時に、観光地や農村地域としてだけでなく、「世界文化遺産」としての白川郷の側面を捉える必要性について指摘もいただきました。我々が現地を訪れた際も、世界遺産としての白川郷の特徴に関する情報発信仕組みにおいて改善の余地が残されていると感じました。今後は、授業で学んだことに加えて、このような観点も生かし地域や観光のさらなる理解に努めたいと思います。

最後に、新型コロナウイルスの影響もあり、本授業のフィールドワークの決行はかなり難航しましたが、そのような状況下でもフィールドワークの機会を与えてくださったチャクラバルティー先生をはじめ、プレゼンテーションや寄稿に協力してくださった観光実践教育サポートオフィスの皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。



➡ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022011300052/>

■ Global Intensive Project (GIP) :

オーストラリア・グリフィス大学附属語学学校 (GELI) オンライン英語研修プログラム

瀬底 花さん (15期生/大阪府立生野高等学校出身)



私は2021年9月6日から3週間オーストラリアのオンラインGIPに参加しました。入学前からGIPへ参加したかったこともあり、オンラインであっても参加して英語学習に力を注ぎたいと考えていました。授業は1日4時間、平日5日間の3週間オンラインで行われました。プログラムが始まる前に簡単なテストを受け、10人程度のクラスに振り分けられました。授業の構成は、最初に簡単な会話練習をするQuick Hello、1週間かけて1つのトピックについてReading, Discussion, Writingを練習するメインパートがありました。また、普段の4時間の授業だけでなく、Teamsを使って毎日たくさんのアクティビティが行われており、たくさんの国から生徒が集まっている語学学校だからこそできる文化交流を楽しみながら、speakingの練習ができます。今回のGIPの中で、私が一番伸びを実感したのはwritingです。大学受験までのwritingというと、文字数に到達させるために自分でも何を書きたいのかわからなくなるくらい文を書いていく大変な作業というイメージがあったのですが、この3週間でその「大変・難しい」というイメージを変えることができました。トピックの答えを考える方法(ブレインストーミング)から文章の構成の仕方まで0から教えてもらうこ

とで、その方法に沿って英作をしてみると、あっという間に自分が書いたことのない量の文章を書くことができ、「思っているより難しいことではない」と意識を変えることができました。speaking に関しては Teams のアクティビティに参加してもっと話したかったというのが全体的な感触でしたが、中でも授業中の発言・ペアワークで話すことだけでなく、特に Quick Hello の時間を大切にしました。プログラムの序盤は、簡単で短い内容しか話せませんでしたが、徐々に「このことについて話したいからあらかじめ単語を調べておこう」とか、「あの時どう言えばよかったのか」など普段から英語で物事を説明するために語彙を増やそうという行動が無意識にできるようになったと感じました。この3週間のプログラムに参加したことで自分の語学力を再確認し、足りない部分を補ってさらに英語学習を続けていきたいと思えるモチベーションができました。自信のなかったことに挑戦する機会を経験でき、充実した夏休みを過ごすことができましたと思います。プログラムを始める前に現地の大学とのやりとりで時間がかかったトラブルもありましたが、現地の担当者様のたくさんのサポートのおかげで最後までプログラムを修了することができました。実際に対面での交流ができなくても、自分の想像以上の経験をすることができ挑戦して良かったと思える3週間を送ることができました。

■ 宮城県気仙沼市でのインターンシップ

黒沼 優樹さん (14 期生 / 東京都立小松川高等学校出身)

私は、2021 年 4 月から 11 月まで、宮城県気仙沼市の一般社団法人まるオフィス様でのインターンシップに参加してきました。前年度はほとんどの授業がオンラインとなる中で「コロナに学びを左右されたくない」「地域の現場に浸って学びたい」という思いが募り、運と縁とタイミングに恵まれ行くことができました。

まるオフィスは、教育と移住支援を通してまちづくり活動を行っている企業です。インターンでの活動は主に、探究学習コーディネーターとして市内の小中高校を回り、総合の時間での生徒や先生の伴走を行うというものでした。大人の立場から生徒と接し、成長の過程や目の変わる瞬間を見ることができたのは大きな喜びでした。

期間中は、移住センターや民宿を営む方に気仙沼の現状や復興、取り組みについてお話を聞かせていただいたり、DMO や旅館、遊覧船などの現場にも接客対応の支援等に関わらせていただいたりして、あらゆる角度から観光や地域活性化を見ることができました。

インターンでは常に「社会人の実力」と「何もできない自分」の差に打ちひしがれていました。自分の情熱と覚悟の至らなさ、受け身になってしまう自分。そんな話を色々な方に聞いていただき、アドバイスと応援をもらえたおかげで何とか走り切れました。しなやかに共に生きるローカルの暮らしを見て、楽しむことと人を頼ることの大切さを学びました。

まるオフィスの代表の方が、会社に欲しい人物を「自ら課題を発見しその解決策を提案できる人」と言っていました。これは社会で活躍する人の特徴とも言えると思います。自分がそうなるための一歩として、受験生や学部生向けの観光の勉強に役立つ Instagram のアカウントを作ることになりました。ただ授業を受けるだけでなく、学びや経験を他の学生たちと共有していけたらいいなと思っています。

休学や長期インターンシップは学部生でもあまり実施する人がおらず、留学などに比べると情報も少ないですが、知見を深めたり能力を磨いたり自己を見つめたりして自分自身をアップデートする 貴重な経験になります。興味のある人は気軽に連絡ください。

最後になりましたが、受け入れていただいたまるオフィス・探究学習コーディネーターの皆様、お世話になった気仙沼の皆様、辛いときに支えてくれた親友、何度も相談に乗っていただいた角岡泰紀さん、貴重な時間を割いて気仙沼まで来てくださった出口竜也先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

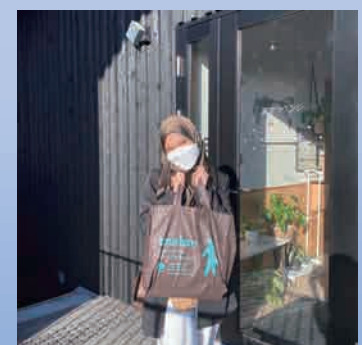


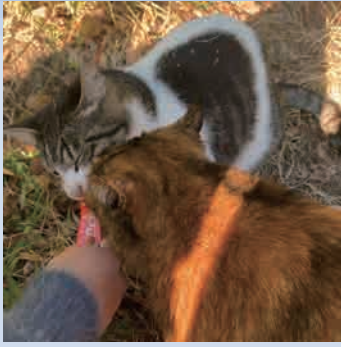
■ 日本での留学生活

サラ フダさん (15 期生 / SM INTEGRASI SAINS TAHFIZ 高校 (マレーシア) 出身)

高校の時からずっと海外に留学したかった私は、今、一年間和歌山大学で勉強できたことが夢のようです。高校の最終試験で頑張って、一生懸命に勉強して、マレーシアの政府から奨学金をもらうことができました。実は、アニメとか、日本のドラマとかを全然見ていなかった私は、日本語が全く分らなかったです。20 か月の間、日本語、社会学や数学などを勉強して、私にとって人生で一番つらい二年間でした。あの時、いつもそばにいてくれた友達や先生がいたからこそ、私は今までがんばることができていると思います。

(次ページへつづく)





私は、マレーシアの多文化共生や習慣に興味があります。また、観光業は国の経済成長にどんなに影響を与えるのかを深く学びたいので、和歌山大学の観光学部に入学することにしました。残念ながら、コロナのせいで、4月にまだ日本に渡航できなく、入学式にオンラインで参加し、授業もマレーシアからオンラインで出席して大変でした。それなのに、先生方や観光実践教育サポートオフィスの方々からたくさんのご指導をいただき、とてもありがたかったです。マレーシアにいる間にも、観光学部の GP で開催された、和歌山大学の学生と米国からの学生との交流会に参加できて、とても忘れられない経験になりました。

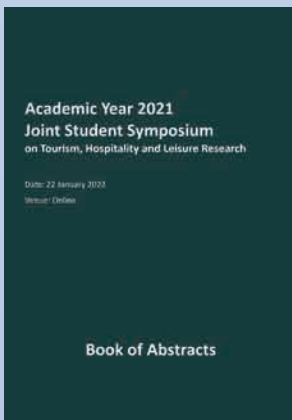
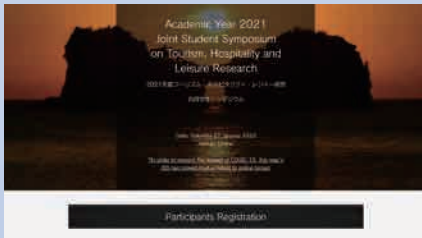
9月が来ると、やっと来日できました。初日、大学に行くと、和歌山大学はとても美しく、猫も多いです。初めて大学で対面授業に出席したり、友達を作ったりすることに緊張していなかったと言ったらうそでしょう。しかし、みんなが優しく、話しやすかったです。何か困ったことがあるとき、観光学部のサポートオフィスに行くと、いろいろな相談ができて、嬉しかったです。

今日まで、日本に来てから、5か月が経ちました。家族と離れて、外国に留学するのが初めてだから全然寂しくないとは言えませんが、みんなの応援があるから、今、日本での生活にますます慣れてきました。あと3年間和歌山大学で一生懸命に勉強したり、新しい雰囲気の中で自分の知識を広げ、日々を過ごすのを楽しみにしています。また、多くの友達を作り、日本の楽しいところへ行き、文化も体験してみたいので、これからも日本で過ごすすべての時間を大切にします。

■ Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research

桝竹 菜々美さん (12期生 (2022年3月卒業) / 奈良県立五條高等学校出身)

深江 芽衣さん (12期生 (2022年3月卒業) / 大阪府立大手前高等学校出身)



Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research (通称:JSS) は全国の大学から学生が集まり、観光学や関連分野の研究成果を発表する学生シンポジウムです。発表や質疑応答は全て英語で実施され、日本国内の大学で学ぶ留学生もたくさん参加します。私達は3年生の時に発表者として、そして4年生になった今年は運営スタッフとして参加しました。

昨年発表者として参加した際は、他大学の先生や学生から普段のゼミのメンバーとは違った視点から多くの質問や助言をいただき、自身の考えを整理し、新たな課題点を見出すことができました。また、英語での発表や質疑応答を通して英語のスキルアップにも繋がりました。どれだけ準備をしても、いざ発表となるとうまく話せなかったり、予想もしなかった質問が来たりと、緊張のなかで行われる普段と違った経験は自身の成長に繋がったと感じています。さらに、同じ観光というくくりでも、様々な視点、学問的アプローチから研究が行われており、今まで知らなかった分野へと興味を広げることができました。

運営スタッフとして参加した今年は、シンポジウムの円滑な運営を実現するために様々な役割を担いました。まず始めに、今年はウェブサイトを作成し、参加者へより素早く情報を提供できるようにしました。サイト作成自体初めての経験だったこともあり、試行錯誤を重ねながら、分かりやすいサイトに仕上げていきました。サイト公開後、多くの方からお褒めの言葉を頂いた際は本当に嬉しく、良い経験になりました。また、昨年は和歌山大学の学生だけで運営スタッフを担当しましたが、今年は立命館アジア太平洋大学 (以下 APU) の学生にも参加してもらいました。企画やスケジュールについて協議をしていくうちに、APU の学生とも仲良くなることができ、多様なバックグラウンドを持つ留学生と協働する良い機会になりました。

運営側になると前年以上に英語を使う機会が多く、伝えたいことを上手く表現できず、もどかしい思いをする場面が多々ありました。しかし、永井先生やドーリング先生をはじめとした先生方にアドバイスを頂き、無事に JSS を終了することが出来ました。参加側・運営側両方の経験を通して、どのようなイベントも沢山の方の協力なしでは実現できないことを改めて実感しました。今春で私達は和歌山大学を卒業しますが、この経験を今後の社会人生活でも活かしていきたいと思います。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022012600014/>

■ メキシコ留学

中村 実瑠さん（11期生（2022年3月卒業）／兵庫県立西宮高等学校出身）

私は2019年8月から2020年7月末までメキシコ合衆国メキシコシティに一年間留学しました。日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画は、メキシコ・日本両国の相互理解及び友好を目的とし、両国政府が青年を互いに留学させるというプログラムです。メキシコでは、ラテンアメリカ最大規模メキシコ国立自治大学という教育水準もトップレベルの国立大学で、スペイン語を学ぶことができました。メキシコ留学のきっかけとなったのが和歌山県のスペイン派遣プログラムでした。大学1年生の春休みにこのプログラムに参加しスペインに住みたいと強く思い、そのためにスペイン語が必要だと帰国後誰彼構わずその話をしていた私に、日墨研修計画の先輩でもあるサポートオフィスのコーディネーターが日墨研究計画について教えてください留学が実現しました。この経験から学んだことは、とにかく夢を口に出すことです。もし何か夢や目標があるなら周りの人に発信してみる事です。自分のモチベーションも上がるし、周囲も応援してくれたり、協力してくれるようになります。

メキシコで関心を持ったのは社会問題です。留学中メキシコ人 YouTuber が人種差別について語ったビデオを見ました。そこで彼は、メキシコにおいて人種差別に関心を置く人々を批判していました。彼が言うには、人種差別はある程度生活水準が確立された第一世界のより "人間的な問題" であって、第三世界が直面しているのはそれ以前、生きるか死ぬかと言う生命維持の次元の問題で、自分たちメキシコ人はまずはこの問題にフォーカスすべきだということです。これを見て私はまずは自分の問題に向き合うところから始めてそれから他のことを考えてみるものだと気づきました。社会の問題に関心を持つこと、行動を起こすことは素晴らしいことですが一方で自分にそれだけのキャパシティがあるのか、長期的に見て可能なのか、これを見極めることはもっと大切だと思います。自分の手に負えない問題は見捨てるというのではなく、それを解決するためにまずは自分の問題と向き合う必要があるということです。私には、この構図が力のある第一世界は自分たちの問題を世界の動きとして変革することができるけども、力のない第三世界は自分たちだけの問題として取り組まなければならないように感じました。グローバル化した現代において、隣国の問題は自国の問題でもあるという考え方が昨今の人種差別撤廃運動に反映されていたと思います。しかしこのビデオを見て思ったことは、それぞれの国にそれぞれの抱える問題があって、そしてそこには優先順位もあるということでした。今日をどうやって生きるか必死の人に肌の色なんて関係ありません。目が細い、髪がブロンドなんていうのも関係ありません。それを目の当たりにしたからメキシコにおける社会問題に強い関心を持ちました。

メキシコ留学を通して、問題や現状を知り、新しい価値観を学び、そして新たな考え方を学びました。だからこの経験は非常に価値があったし、留学前後で人間的に成長したと自負していますし、人生をさらに充実させるきっかけを下さったサポートオフィスの皆様、学部の先生方、そして同世代の仲間に出会えたことを感謝しています。



Topics ー過去のイベントとニュースー

■ オーストラリア・クイーンズランド州政府観光局日本局長による学部内公開講義を実施しました

2021年11月24日（水）、オーストラリア・クイーンズランド州政府観光局よりポール・サマーズ日本局長をゲストスピーカーにお招きし、「Rebuilding consumer demand for Queensland」をテーマにご講演頂きました。

世界的にも有名なDMO（Destination Management Organization）組織であるクイーンズランド州政府観光局が、コロナ禍を経て、クイーンズランド州への訪問者を再び獲得していくためにはどのような戦略で働きかけるのか。

参加した学生・教職員らは、サマーズ日本局長の説明に、真剣に耳を傾けました。

➡ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022012500031/>



■ 駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使 来学・学部内公開講義を実施しました



2022年1月19日(水)、駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館よりシニシャ・ベリヤン特命全権大使をお招きし、「Tourism and Peace in Bosnia and Herzegovina (ボスニア・ヘルツェゴビナにおける観光と平和)」をテーマにご講演いただきました。

学部内公開講義となった本講義には、観光学部生・教職員らが参加。受講者は、大使が紹介するボスニア・ヘルツェゴビナの観光映像の魅力に引き込まれ、さらに、大使が語るボスニア・ヘルツェゴビナの歴史と現在、豊かな自然の中で展開される文化や観光事情に熱心に耳を傾けました。

講義後も学生らが大使に質問をするなど、観光学部生たちにボスニア・ヘルツェゴビナへの興味・関心が生まれた日となりました。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2022012000036/>

■ 2021年度LIP合同活動報告会〔オンライン〕：和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」を実施しました

2022年2月5日(土)、2年ぶりとなる「2021年度LIP合同活動報告会〔オンライン〕：和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」をオンラインで実施しました。

本会は、2021年度に実施された21プログラムが一堂に会し、一年間の取り組みを広く共有するため、また、学生が活動を振り返り自身の学びと今後の活動のブラッシュアップを図ることを目的としています。

報告会の様子は、観光学部HPよりご覧ください。

➔ 観光学部 HP <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/internship/lip/index.html#jissi-rei>

■ 2021年度学位記・修了証書授与式が執り行われました



2022年3月25日(金)、2021年度学位記・修了証書授与式が執り行われ、観光学部生126名、大学院観光学研究科博士前期課程10名、博士後期課程5名が、それぞれ学士・修士・博士の学位を取得し、新たなステージへと旅立ちました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、和歌山ビッグホールでの学位授与式、西4号館T101教室での各種表彰式(学部成績優秀者表彰、卒業論文賞表彰、修士論文賞表彰、ピアサポート表彰、学部長表彰・研究科長表彰、グローバル・プログラム(GP)認定証明書授与、観光学部教員表彰)等が執り行われました。

卒業生・修了生皆様の今後のご活躍を期待しています。

Future Events —今後のイベント紹介—

■ TOURISM CAFÉ「GIP/LPP 経験者ラウンドテーブル@Zoom」を開催します！



2022年4月8日(金)13時10分～14時40分、観光実践教育サポートオフィスによるTOURISM CAFÉ「GIP/LPP 経験者ラウンドテーブル@Zoom」(全学年対象)を開催します。

Zoom URLなどの詳細は、新入生ガイダンス/在学生ガイダンスで配布している「観光実践教育サポートオフィスからのお知らせ」をご覧ください。

編集・発行

(2022年4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学西4号館K216室、K116室

TEL 073-457-8553 / E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp / URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

*本誌はWebページからも閲覧できます→<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/fuzoku/tourism-education-research/WTU.html>

